

輸出事業計画

※申請者名：江与味製材株式会社、品目：製材

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 当社は2013年からヒノキ製材品（内装材・家具用材）の輸出（韓国・中国）を開始、輸出国は韓国をメインとして、2016年より台湾向け、2022年からベトナムへの輸出を開始している。
- 当社の主力製品は板材であり、地域の木材関連産業の活性化のため、より付加価値が高いヒノキの製材品（内装材・家具用材）を輸出の対象品目としている。以前は板材の中でもラフ材（乾燥せず表面処理していない製材製品）の製品が主力であったが、その後乾燥機を増設したことで、KD材（Kiln Dry Wood：人工乾燥した製材製品）及びKDM材（Kiln Dry Wood molder：乾燥し仕上げ加工した製材製品）の増産が可能となり、高付加価値製品を中心とした国内販売（注文販売・市場への出荷）及び輸出重視に転換することが出来た。

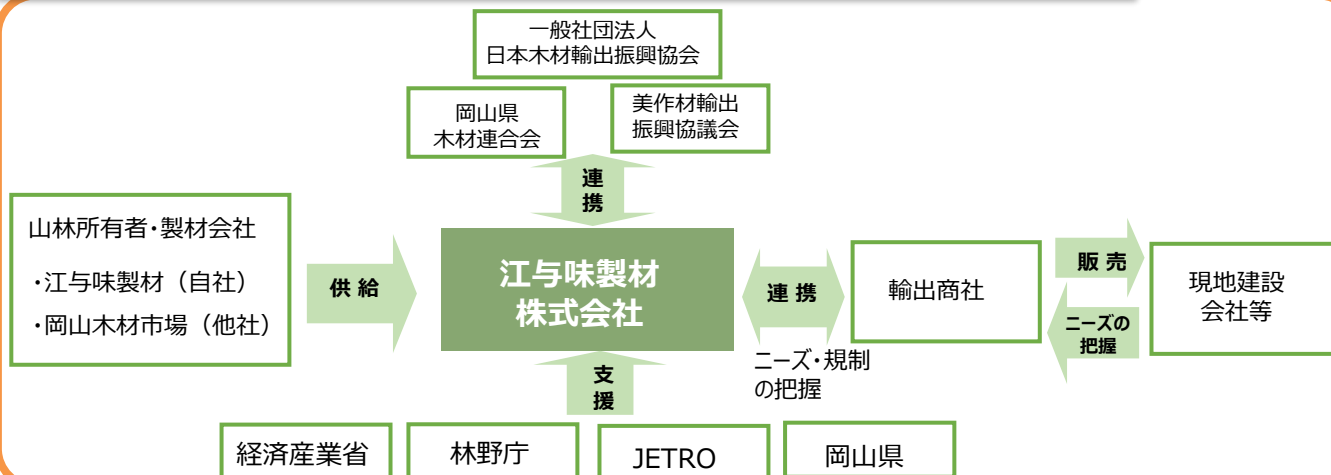
【課題】

- 中国などの競合国との価格競争があり、高い付加価値を持つKD材及びKDM材の拡大を進め、どのようにブランディング等を行っていくかが課題である。
- 高付加価値材であるKD材及びKDM材を輸出拡大に向けて増産するには、製造設備の能力が不足することから、中温乾燥機及び全自動皮剥機を増設する必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

- 岡山県木材組合連合会等とも連携し、韓国国内で美作ヒノキの組合を設立することなどにより、「美作ヒノキ」のブランディングやプロモーション等を行う。
- 海外での展示会・商談会への出展や国内外の市場調査を行うなど、品質・性能に優れた県産ヒノキ製材品等の販路開拓に向けた取組を強化する。
- 海外から家具屋等のバイヤーを津山市に招待し、同地域内の製材会社のツアーを行い、これをきっかけにして、現在輸出を行っていない製材会社にも興味を持ってもらえればと考えている。
- 中温乾燥機等の増設による生産体制の強化
輸出用製材を生産している久米工場に中温乾燥機を導入することにより、乾燥能力を増強するとともに、久米工場でのKD材・KDM材の輸出一貫体制（製材・乾燥・仕上げ）を確立して、輸出強化につなげる。また、全自動皮剥機を本社工場に導入することにより、皮剥きの生産能力を向上させ、輸出強化につなげる。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和3年度） 2021年6月～2022年5月	目標年（令和9年度） 2027年6月～2028年5月
輸出額(千円)	545,330	622,500
輸出量 (m³)	6,916	8,300
輸出先国	韓国、中国、台湾、ベトナム	韓国、中国、台湾、ベトナム